

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873200406		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームあさがお (西)		
所在地	茨城県笠間市旭町417-8		
自己評価作成日	令和 3年 12月 13日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873200406-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症のみの方だけではなく重複障害(精神障害)を抱えた利用者であっても、ある程度症状が安定していれば、医療機関、介護保険施設との連携が図られており、利用の状況に応じて柔軟に対応できる。また施設近隣には衣料品店や薬局、お食事処やコンビニ、総合スーパー等があり環境に恵まれており、ご家族様と一緒に外出して食事をしたり買い物をしたりなど一緒に時間を楽しく過ごすことができます(コロナの為ここ2年位は外出ができない)また、施設の食事も美味しい上に、更に利用者と一緒にデザートを手作りしている事も好評です。

事業所は商業地域に位置しているが敷地は広く、散歩をしながら隣接している大きなスーパーの人々の出入りや幹線道路を走る車両を見ることが出来、今までの生活を感じながら日々過ごすことが出来る。代表者は食事が毎日の楽しみとなるように美味しい食事を提供することを基本としている。母体が医療法人で緊急搬送が夜間を含めて24時間対応となっており、介護計画も家族等が見ても支援内容が具体的に記載されている等、コロナ禍で利用者との面談ができない中、家族等の安心に繋がっている。事業所理念として「笑顔が絶えない施設作りを目指します」と掲げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員全員で地域密着型のサービスの意義を踏まえた理念と「笑顔が絶えない施設作り」を目指します。職員が常に確認できる様に各ユニットに掲示すると共にミーティング時に管理者と職員で理念を確認しあい、実践に繋げている。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。職員は利用者に対して笑顔で声掛けをするよう努め、「笑顔の絶えない施設作り」を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策の為ボランティアの方、中学生との交流会や職場体験中止、外部との交流が出来ないでいる。	コロナ禍で中止になってしまっているが、散歩の際地域のごみ拾いをしたり、中学生の職場体験やボランティアの受け入れを行っている。事業所の夏祭りや運動会への参加も働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事時には地域の方々の参加を呼び掛けたり、散歩中にはごみ拾いをしたり、中学生との交流会を学校に依頼したりしていましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため活動がすべて中止されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には市職員、民生委員、地域代表や家族元家族等で2ヶ月に1回開催しているが、新型コロナウイルス感染防止対策の為、随時市役所と相談の上、電話参加、文書で行っている。地域の認知症相談窓口を設置している。	コロナ禍で書面や電話でのやりとりとなっている。感染症対策などに助言をもらったり、空き室を埋めるためのアピールの方法などもアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市担当者や生活保護自給者の手続きなど、毎月訪問し事業所の空き状況を報告したり家族からの相談や困りごとを報告相談するなど市担当者との協力関係を築いている。	管理者は介護認定更新申請時や生活保護受給者の報告等で定期的に市の担当窓口を訪問したり、生活保護担当職員を定期的に受け入れている。市主催の講習会や研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が内部研修(コロナの為外部研修は中止)DVDなどをで、禁止の対象となる身体的な行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する内部研修を年2回行っている。疑問点が生じた場合には申し送り等で話し合い、解決に努めている。スピーチロック対策などをミーティングで都度話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を発見した場合は、速やかに関連機関に連絡をするなど、虐待防止に努めることとする。内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてご家族の相談に応じられるよう努めている。事業所内に利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所当日または事前に電話や入所前施設見学（外からガラス越し）時に契約書にそって説明している。疑問など有るときには電話などで随時答え不安なく入居に至れる様に努めている。経済的問題や重度化に伴う負担などにも説明し確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話、アンケートなどで不満や要望などを聞きホームの運営やサービスの質の向上に生かしている。内容に応じて改善している。	家族等が面会に訪問した時や電話で、利用者の様子を伝えるとともに意見や要望を聞くように努めている。家族アンケートも実施し、得られた情報を集約して報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を設け、職員の意見や提案を管理者が本部上司に電話や直接伝え繁栄に繋げている。	事業所だけでは解決できない職員からの意見や提案は管理者が法人本部会議で経営者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や個々の努力や実績、勤務状況より、年1回給与の見直しをしている。また家族の関係で休日出勤できない職員については勤務形態を考慮するなど対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修などを受講できるように機会を設けている。また研修の内容について報告書を作成すると共に内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県グループホーム協議会に加入している。笠間市社会福祉協議会の研修や行事に参加していたがコロナの為ここ2年位は参加していない。終息した時には積極的に参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安なことに対してそれを解決、解消できるよう必要に応じては家族も交えて話し合うなど(今は電話対応)対応している。また要望についてはできる限り答えるなど生活する上で安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からないことや困っている事、要望など有った場合は、遠慮なく随時電話や訪問時に問い合わせしてくれるよう、契約時またはケアプラン作成時に伝えており、解決解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向の確認をしたうえで、具体的に今必要なサービスを見極め支援できるよう努めている。またその結果によっては病院や特養、老健、ケアハウス等の情報を提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に下膳や掃き掃除を共同で行い共に暮らすもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が面会を希望している場合や疎遠になっているようなときには、家族に連絡し訪問などを依頼している。今はガラス越しの面会となる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や地域の方、お友達の訪問時は感染防止を図り、玄関先でガラス越しに短い時間で行っている。外食や墓参りなども本人の希望を家族に伝えたりしている。今はコロナの為手紙や電話などの支援をしている	入居前相談や入居時の聞き取り調査、担当ケアマネジャー等より情報を得て、フェイスシートに記載している。家族等との電話や手紙でのやりとりを支援するほか、近所の友人や趣味の仲間の訪問を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室に閉じこもることなく、マスク着用、間隔をあげホールで体操やレクリエーションやお話、テレビなどを見たり支援している。コロナの為各ユニットごとで行事している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院治療が必要になった為に退所した方の希望要望などを病院に伝える橋渡しをするなど支援している。退所されてから十数年過ぎても、推進委員様としてご協力いただいている方が(2名)おります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・CM・職員は入居時の聞き取りやモニタリングにより把握すると共に、日常のつづきから意向の把握に努め、随時又はモニタリングの結果によりサービス担当者会議を開催し検討している。	日頃の支援の中での会話や態度、表情の変化等から利用者の思いや意向の把握に努めている。得られた情報は話し合い、申し送りノートに記載し、情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の他に必要に応じて家族、本人から生活歴や環境などを伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりの状態を把握しそれをミーティングや記録により共有し、できる力を発見できる様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントで本人や家族の思いや暮らしを把握し意見交換やモニタリング、サービス担当者会議を行い介護計画を作成している。定期的見直し心身の状態に変化が生じた場合は随時介護計画を見直し、家族の確認を得ている。	介護計画は家族等に送付し確認してもらっている。計画が具体的に明記されている為、家族等も分かり易く職員もケアサービスに活かしている。定期的なモニタリングを行い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個別のケース記録に具体的に記入し、ミーティングに手職員間で情報を共有している。またその記録をもとに介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が安心して施設で暮らし続けられるよう、また利用者の家族の要望に応じたサービスを提供できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問理容や消防署協力の下避難訓練なども行っている。今までできていた地域の方々のイベント、歌謡ショー、踊りなどは、コロナが終息できた時には地域の方々のご協力をお願いすることになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他に、かかりつけ病院の受診が継続してできる体制をとっている。かかりつけ医と連絡を取り、受診の際には状態や状況を詳細に報告するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時にかかりつけ医の継続受診を説明している。緊急時には母体の医療機関に24時間の搬送サービスを行っている。家族等が受診に同行する際には、利用者の状況を職員が口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時相談できる体制をとっており指示や指導の下支援している。また、緊急性の無い場合は定期的な訪問診療や訪問看護時に相談し、指導を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどで情報を交換するほかに、実際に病院に出向き、医師や看護師に状態を確認し、その時に家族の意向も伝えるなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、利用契約時に家族に説明し同意書に捺印をもらっている。定期的又は随時訪問診療やかかりつけ医受診をし、医師との連携を密にし、より長く施設で生活ができるよう支援している。	看取りは行わないことを説明し、同意書を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行っている。重度化した場合における対応に係る指針を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所や和室に応急手当や対応の手順などを掲示している。また職員の中に普通救命講習を終了している者もいるが、コロナの為更新ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をえて年2回定期訓練を行っているが、コロナの影響もあり、消防署の指示に従い自衛消防訓練を行っている。その他ミナト防災にも協力を得ている。近隣の方や区長に災害時の協力を依頼している。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行っているが、地震等を想定した訓練を行うまでには至っていない。災害に備え、水は近隣住民から井戸水がもらえるようになっている。	災害訓練は地震などの想定も含めた訓練を実施して反省会の内容から次回に向けた課題を決め訓練が活かされるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、自己決定しやすい言葉がけや丁寧な対応に努めている。利用者の書類は入居者や訪問者の目に触れないよう保管している。	趣味の俳句や書道が継続的に続けられるよう支援する等行動を制限していない。個人情報に係る書類等は訪問者の目に触れない場所に保管している。肖像権に関する同意書を作成するまでに至っていない。	肖像権に関して目的別に家族等が選択できるような同意書の作成を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力やできる力に合わせて説明をし自己決定を働きかけている。また困難である場合は日常の生活の中。コミュニケーションを図る中で思いに気づくことができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちやペース、体調により入浴時間や食事時間、就寝時間など希望に添えられるよう柔軟に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、本人の希望する髪型にカットを訪問理容で行っている。衣類は近所の衣料品店に行き自分で選んでいただきその人らしい身だしなみができるよう支援しているが、コロナの為、本人の希望を聞いて職員が求めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量を考慮し提供している。準備や片付けなどで出来ることはしていただくなど働きかけている。口から食べることができるよう口腔体操を取り入れている。コロナ感染予防の為今は黙食となっている。	利用者はテーブル拭きや下膳など、できることを手伝っている。季節の行事食や誕生会など、食事を楽めるよう工夫している。利用者の嚥下能力に合わせて刻み食やペーストにて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立調理済み湯煎し提供している、個々の状態により、刻み職やお粥で提供したりスプーンを使用してもらったりしている。水分量や食事摂取量の把握をするため記録を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、歯磨きうがいの声掛け見守り、必要に応じて介助する。また義歯洗浄支援を行い、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態排泄表を作成、排泄パターンを把握し声掛け誘導支援を行っている。尚本人家族との話し合いによりポータブルトイレを使用し安全な排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握し、さりげない声かけをして誘導して、夜間はポータブルトイレを使用するなどしてできるだけ、安全にトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の有無を行っている。水分補給や体操の他に、便秘予防として散歩等も声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に沿った湯加減で週2回の入浴を設けているが、冬至にはゆずを入れたり、季節に合わせて入浴剤を入れたりしている。	入浴は基本週2回、午前中となっている。ゆず湯や入浴剤で入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度の運動を働きかけたり、就寝前には穏やかな雰囲気づくりを心掛け気持ちよく眠れる様支援している。不眠の利用者には必要に応じて医師や看護師に相談するなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を確認し、症状の変化など状態観察及び確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や片付け、食事の手伝い等、これまでしてきたこと、できることはしていただき、役割を担う自信や張り合いのある生活を働きかけている。身体を動かしたり、歌を唄ったりすることで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策の為外出は定期的の外來受診のみとなっている。暖かい天気の良い日には各棟で敷地内ではあるが外気浴をしている。	天気の良い日には、敷地内で外気浴を楽しんだりし、季節の移り変わりを楽しめるように配慮している。現在中止しているが、終息後は近隣に散歩に出掛けたり、近隣のお店で買い物を楽しめるようにする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理し欲しいものが有る時にはご家族様に電話確認、同意を得て職員が購入してくるコロナになる前は本人も一緒に好きな物を買っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話が設置してあり自由に掛けられるようにしてある。はがき切手の購入や投函支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光できるよう建物は設計しており、とても明るい。また廊下やホール、玄関などには季節の花や個々の手造り作品や新聞の切り抜きなど掲示している。ホールや廊下居室のサッシは防寒、防音できるよう二重サッシにしてある。	採光に配慮した建物は明るく、共用空間は、防音や温度・湿度管理がこまめに管理され、快適な空間になっている。居間兼食堂は、食事を楽しんだり、利用者同士が談笑し、憩いの場になっている。廊下には足裏マッサージ機やソファが設置されており、利用者が会話や休憩ができる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファが設置され足裏マッサージがいつでも、誰にでも利用ができるようになっている。談話や休憩ができるようになっている。またそれぞれの居室は思い思いに自由に時間を使うことができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく安心して過ごせるよう使い慣れた家具やラジオ、家族の写真、遺影などが持ち込まれている。人の目に触れたくないものは、箱などに収納している。	居室にはエアコンやベッド、洗面台等が備え付けられている。事業所は、日々使い慣れた品々を持ち込み、自宅同様に過ごせるよう利用者、家族等に伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下浴室には必要に応じて手すりが設置してある起き上がりがしやすいようにベットの柵を付けたり安心して安全に歩行できるようシルバーカー使用したりして、自立した生活が送れるよう工夫している		

(別紙4 (2))

目標達成計画

所名 グループホーム あさがお

作成日 令和 4 年 3 月 14 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35-13	災害の訓練は火災など、日、夜間想定で行なわれているが地震想定した訓練は行なはれていない。	自身が発生した際、利用者を安全に避難誘導する訓練を行うことで、地震発生時に速やかに安全に避難することを身につけ入ることができる。	地震想定 of 訓令意を今月3月中に実施を計画し、現在消防署と日程調整をしている。地震発生時に利用者が安全に避難できるよう、定期的に地震想定 of 避難訓練を実施していく。	1ヶ月
2	36-14	肖像権に関する同意書について、目的別に家族の同意書を得る内容になっていない。	目的別に選択ができる内容での同意書を作成し、利用者個々の人格の尊重、プライバシーの確保に努める。	家族が具体的に選択できるような内容での同意書を本部と検討しており、同意書ができ次第家族に送付し同意を得る予定となっている。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。